

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174700781		
法人名	株式会社 アルムシステム		
事業所名	グループホーム新得ふれあい館		
所在地	上川郡新得町西3条南6丁目1-3		
自己評価作成日	平成30年10月11日	評価結果市町村受理日	平成31年3月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhvou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0174700781-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhvou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0174700781-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号
訪問調査日	平成30年11月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者さんのニーズを大切に、職員が一人一人にあった細かなケアを行っている。</p> <p>誕生日会は利用者さんの希望を伺い、外食やホームで工夫を凝らしたおやつや食事を提供させていただいている。</p> <p>地域やご家族との交流を大切に、町内会のお祭りや会議へ参加、ご家族については年1回のホームの焼肉パーティーにお招きしている。</p> <p>入居前の生活歴を大切に、馴染みの場所への訪問や友人との交流が続くよう支援している。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所はJR新得駅近くの閑静な住宅街にあり、桜の名所として多くの地域住民が訪れ、エゾリスやエゾシカなども観察できる新得山を窓から眺望できる豊かな自然に囲まれた地にある。母体法人は多くの福祉関連施設等を運営して、事例を共有すると共に、日頃から職員の研修にも力を入れ「身体拘束防止」を初め各種の委員会を設置しケアの質の向上に努めている。地域密着サービスを掲げている当事業所は町内会の草刈や清掃、祭りなどの行事に積極的に参加し、また、紙芝居ボランティアが来訪して交流を深めると共に、小学校6年生を対象にした「認知症キッズサポーター講習会」に講師を派遣したり、相互に交流しながら地域に貢献している。町内会との連携や地域行事への参加が馴染みを継続させている。近くの小川が水害の危険に直面し避難する事態を体験し、また、胆振東部地震によるブラックアウトも体験したことから、災害時の自助努力だけでなく本社の力の必要性も経験した。運営推進会議には知見者やボランティアなど多くの人の参加を得ながら運営に反映できるよう検討している。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の事業所理念を作り、ホーム内に掲示している。地域との関わりを持つべく町内会のイベントへの参加をしている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を廊下に掲示し、職員の気持ちを一つにつなぐ基となっており、確認の必要がないほどに共有されている。	利用者や地域のニーズの変化を考え、職員で話し合っ、現状に即した理念に作り変えていく事を期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入し、お花見やお祭りに参加し交流している。毎年参加する事によって顔馴染み方も増え交流を楽しんでいる。また緊急時に対応して頂けるよう、緊急連絡網を作成して下さっている。	町内会に加入し、町内会の祭りや花見等の行事に参加して、地域との交流を深めている。また、災害等の緊急連絡網の登録を得て、見守りなどの協力を依頼している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町の小学生を対象とした認知症キッズサポーター養成講座に参加している。授業に講師として参加したり、小学生が訪問し交流している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度会議を行い、行政担当者、民生委員、町内会長、利用者様のご家族様の参加がある。会議では活動報告を行い、皆様から意見やアドバイスをいただいている。会議での内容は、職員会議で報告しサービス向上に活かしている。	地域包括支援センター職員や民生委員、町内会、家族等が参加して年6回開催し、活動報告などを行って意見や助言を得て、ケアに反映させている。会議では事前に課題や議案を用意して、単なる報告だけにならないよう、質の向上を見据えた運営推進会議になるよう取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居希望者の連絡調整や運営推進会議に参加して頂いている。包括支援センターの認知症キッズサポーター養成講座のお手伝いをさせて頂いている。	役場との連携が密接であり、運営に関する意見や助言を受けながら日常のケアに反映させている。小学校6年生を対象にした「認知症キッズサポーター養成講座」を、役場や地域包括支援センター等の連携にて開催している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修に参加する事により、拘束は禁止行為として全員が認識している。運営推進会議の時に身体拘束についての話し合いの場を設け、話し合った内容を職員に周知している。玄関の施錠は、防犯上夜間帯に職員が1名になったときのみしている。	母体法人が拘束に関する委員会を定期的(2ヶ月毎)に開催し、職員は交代で参加して会議内容を全職員に周知している。今年から運営推進会議に拘束適正化委員会を開設し話し合いの場を設けた。また、徘徊の可能性のある利用者には常に行動に注意を怠らない配慮をして予防している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	会社で虐待防止委員会を立ち上げ、虐待について社内研修を行っている。また、実際にあった事故報告に関して日頃から話し合い、防止に努めている。		

グループホーム新得ふれあい館

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての研修は、最近参加していないが、今後必要があれば関係機関に相談したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の事前にホームの見学、面会等を行い、パンフレットをご覧になっていただきホームについての説明をしている。面会後も電話や訪問等で不安解消に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来館時等にコミュニケーションを図りながらお話を伺っている。利用者さんとも個別にお話が出来る機会を作っている。	利用者からは日常の会話や生活の中で、家族等からは来訪時等に意見や要望を聴くよう努めている。来訪の無い家族へは電話連絡を心がけながら、毎月のホームだよりにより個別に手紙を添付して日々の生活実態を知らせている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り等、日常的に職員の意見を聞く機会を設けている。その時間問題があれば月一回の職員会議にて話し合っている。	管理者は日頃から職員と話しやすい雰囲気作りを努めるとともに、朝礼やミーティング時、職員会議で話を聴くようにしている。管理者は各職員からの日常業務や支援方法に関する率直な提案や気づきを尊重する姿勢を維持している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人評価し、表彰や昇格がある。法人としても処遇改善に力を入れており、手当の増額など条件が変わってきている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修会へ参加し、職員のスキルアップに努めている。研修後は報告書を提出し、職員間で共有したり、月一回の職員会議にて報告するようにしている。社外研修への参加は、勧めているが現状行っていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ほかの施設で行っているケアカフェへの参加をしているが、全職員は行っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面会、またはホームへ来館して頂き、不安な事やお手伝いが必要な事を伺う。入所してからは、細やかに目を配り、話を聞くなどして不安を取り除く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族様より生活歴や入居前の様子、不安な事、要望を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会後に職員会議を開き、情報を共有し話し合うことにより、要望に応えられる支援方法を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることはやっていただき、出来ないことは支援し共同生活を行なっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の関係を大切に、ご家族に協力していただき、共に支えていく関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お電話等で連絡が取り合え、いつでも馴染みの人が来館出来るようにしている。昔から通っていた美容院やお店に行けるよう支援している。	地域の行事「高齢者芸能発表会」に参加したり、地元商店への買い物で馴染みの関係を深めている。また、散歩したり理美容室利用で地域住民との馴染みの関係を継続させている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルが起こらないよう座席等を考えている。おやつの中には皆が集まれる機会を作り、体操、カラオケ、ゲームを行い楽しんでもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られても機会があれば面会し様子を伺ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の関わりの中で感じ取った、ご本人の希望、意向を大切に、出来る限り実現できるように努めている。	利用者の生活歴や日々のケアの中でのコミュニケーションから、思いや希望、意向を把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人やご家族に伺ったり、センター方式アセスメント表を記入していただき、職員会議にて共有している。また入居前のケアマネや病院等にも伺うことがある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や業務日誌などに記録を残し、情報をスタッフ間で共有することにより、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的にご本人とゆっくり話し合うことにより、現状のニーズを読み取っている。それを職員会議で話し合い、職員一人一人の意見を取り入れ、介護計画作成を行なっている。医療面では、主治医や訪問看護師に相談している。	利用者、家族の意向を反映させて、職員会議で話し合って6ヶ月毎に見直し、家族に説明し同意を得ている。変化が生じた時は現状に即し、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日日誌に状態の変化や気が付いたことなどを記入し、ケアの統一に努めている。また変化に合わせた介護計画の見直しを心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族からの意見や要望があれば、実現出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事に参加したり、町で行っている紙芝居のボランティアの方々に月に一度来ていただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を大切に、入居後も変わらず受診できるよう支援している。	利用者・家族の希望するかかりつけ医に受診できるよう支援している。受診は基本的に家族が同行し、職員が同行する場合もあるが、受診記録は同行した職員や家族からの報告を基に作成し、常に利用者の状態が把握できるようになっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度協力医療機関の看護師に訪問して頂き、日々の様子や気づきを相談し、意見を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院、面会、退院時に、医師や看護師に相談している。また退院後も電話等にて相談に応じて頂けるような関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に重度化した場合の指針を説明している。また医療機関や行政担当者とも相談し、協力をお願いしている。	入居時、本人・家族に重度化した場合の対応について指針に基づき説明し同意を得ている。利用者や家族の意向に添った支援が提供できるよう家族との連絡を密にしている。看取りはしていないが、重度化した場合は、利用者や家族、医療関係者と連携し、方針を共有して最大限の支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の備えとして、マニュアルを作成している。また社内研修会に参加し、実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。また避難場所地図を作成掲示し、いつでも確認できるようにしている。町内会に協力を呼びかけ、緊急連絡網を作成して頂いている。水害による断水、地震による停電の経験を活かしていけるよう努める。	年2回の避難訓練を実施している。ブラックアウトや水害避難の経験により、本社からの支援を含めた災害対策を検討している。常に避難場所の確認を行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の人格に合わせた言葉遣いや声掛けの仕方とし、不快な思いを持たれないよう努めている。	年長者への尊敬を忘れず、一人ひとりのプライバシーを損なうことのない接遇をし、利用者自身の身だしなみや暮らし方にも配慮する取り組みをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	更衣の介助の際、数枚の服とズボンの中から、着たいものを選んで頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を聞き、なるべく対応できるように努めてはいるが、場合によっては出来ない時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際、衣服を自分で選んで頂いている。また美容室では、自分の好みの髪形にしている。		

グループホーム新得ふれあい館

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを可能な限り把握し、代用出来る物は個別に変更してお出している。日常の会話の中で食べたい物をお聞きし、献立作りに活かしている。盛り付けや片付け等も手伝って頂いている。	職員と一緒に料理作りや盛り付けを行うなど、利用者と職員が一緒になって準備しながら食事を楽しんでいる。通院時にはラーメン屋さんに寄ったり焼肉を食べたりするような支援も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は、毎日チェックしている。水分量は進まない方もおり好みのものに変更するなどしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で行えない人は、介助している。夜間に義歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事の前やおやつの前などに、トイレの声掛けをしている。会議や申し送りの際、排泄状況について話し合い、その都度、個別に対応出来るように心がけている。	排泄チェック表をもとにパターンを把握して、トイレ誘導を行なっている。少し早めの声掛けや個々に合わせたタイミングでの誘導をすることで、おむつ使用を減らし、トイレでの自立した排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の状態が酷い方は毎日排便確認を行い、便秘薬について医師と相談している。また水分や牛乳の摂取を促し、水分不足にならないよう注意している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴表を作成し、入浴のタイミングは決めてはいるが、本人の体調や気分を考慮し無理強いはせずに入浴して頂いている。汚染時やご本人の希望があれば入っていただけるよう出来る限り対応している。	週2回を基本として、体調や希望にあわせて入浴できるように取り組んでいる。入浴を拒む利用者には無理強いはせず、時間や担当者を替えて誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝、声掛けで起きられないときには、無理に起こさず様子を見ているが、夜間の不眠に繋がらないように気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤管理簿にていつでも確認できる。薬の変更があった時は、職員間で伝達を行い業務日報に記入している。変更箇所をマーカーでチェックすることによりわかりやすくしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームの中にいるだけでなく、外出に出掛けたり気分転換に繋げている。また季節ごとの行事を大切にしている。		

グループホーム新得ふれあい館

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り希望に応じたいと思っはいますが、現状厳しい状態にある。普段行けないような所は、ご家族にお願いしている。	年間行事予定でバスでの外出支援を行っている。通院時の買い物や食事をするなどの寄り道で利用者に外出の楽しさを提供している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	何人かの方は、自分で管理できる範囲内でお金を持たれている。病院受診の際、販売機で飲み物を買われたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から希望があったときは、気軽に電話できるようにになっている。その時介助が必要な方にはお手伝いをさせて頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝掃除を行い清潔を心掛けている。設備は家庭的で、利用者にとっても扱いやすい物になっている。ホームの窓からは新得山を見ることが出来る為、季節の移り変わりを感じる事ができる。リビングのカレンダーを毎月利用者と一緒に作成しており、季節感のあるものになっている。	非常口の外にテラスがあり夏にはテラスで楽しんでる。広い廊下には利用者が作った作品を掲示している。事務室と調理室から利用者の動向が見える為、安全面や利用者の状況を把握し、ケアに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デッキや玄関の外にベンチを置いており、好きな時に利用できるよになっている。また和室にもソファやテレビを用意し、独りでくつろげるよになっている。リビングは、気の合う利用者のおしゃべりの場になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、使い慣れた家具等を持ってきていただいている。また家具は、ご本人やご家族と相談して設置している。	居室には、使い慣れた家具や日用品等が持ち込まれたり、家族等の写真が飾られて本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には名前の書いた紙が貼っており、ご自分の居室が分かりやすくなっている。玄関には靴が履きやすいように椅子を置いている。目の不自由な方には、居室、トイレ内に動線を理解したうえで手すりを多くつけさせていただいている。		